

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	663-2 観光振興事業(施設の指定管理)	会計	01	一般会計
		款	07	商工費
		項	01	商工費
基本施策	44 資源ともてなしの心を活かし、観光を振興する	目	03	観光費
		細目	336	観光振興経費
行革大綱の重点事項番号		細々目	01	観光振興経費
担当部課	コード	191400		担当者氏名
	名称	産業建設部商工労働観光課		
		連絡先	43 - 2309 (内線)	

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	市内、市外及び県外の観光客	※対象件数
成果(どうする)	年間を通して3つの施設の展示物等が見学でき、伊賀市の観光資源や文化に触れることができる。	
根拠法令・要綱等	伊賀市公の施設に係る指定管理者の指定手続等に関する条例	
開始年度	平成 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H21 事業内容	○社団法人伊賀上野観光協会に、だんじり会館・伊賀信楽古陶館・伊賀越資料館の3施設を指定管理として委託した。	
社会情勢の変化等	○受託団体では観光客にとってよりよい環境で見学できるよう、陳列ケースや説明板などの充実など、観光客の増加のための努力をしているが、厳しい経済情勢などから入館者は減少してきている。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積(延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	社団法人伊賀上野観光協会
2 配置人員	8人
3 年間運営費	34,711 千円
4 市内の類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
年間開館日数(だんじり会館)	目標	日数	357	357	357	357
	実績		357	357		
年間開館日数(古陶館・伊賀越資料館)	目標	日数	361	361	361	357
	実績		361	361		

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
指定管理3施設の観光入込客数		過去3年間の入館者数実績平均を目標値に設定し、当該年度を評価	人	目標	51251	47246	47246
				実績	41008	42806	47246
				目標			
				実績			

投入コスト	H20 決算	H21 決算	H22 当初予算	H23 当初要求
直接事業費計(A)	14,877	15,360	15,298	15,664
Aの財源内訳	国庫支出金			
	県支出金			
	地方債			
	その他	0	0	0
一般財源	14,877	15,360	15,298	15,664
事業投入人件費(B)	0.2人 1,152	0.2人 1,152	0.2人 1,152	0.2人 1,152
フルコスト(A)+(B)	16,029	16,512	16,450	16,816

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
有効性	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	○
達成度	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業	○
効率性	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】	
	財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業	○
効果性	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	
	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○
達成度	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	
	サービス水準や対象を見直す余地がある。	○
効果性	当初設定した計画を 100% 実施している。	【計画に遅れが生じている場合、改善策】
	予算の繰越の有無	
効果性	【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
効果性	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	
	【事業名】	
効果性	受益者負担を求めることができる事業である。	○
	全体コストにおける負担構成は適正である。	
効果性	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	入場者減に対応すべく観光協会等で展示の工夫や人件費削減の努力がなされている。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 指定管理者において入場者を増やすための取組み(割引共通券の販売、入場者への忍者変身サービスなど)を行うとともに人件費削減に向けた努力を行った。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	松本 浩典
事業の方向性	【方向性】 現状維持
	【理由】 平成22年度で指定管理期間が満了するため、今後さらなる効率的な施設管理を行うため、委託先および業務内容について検証を行う。
現時点における課題、その他	入館者減への対応及び施設の老朽化に伴う維持管理費コストの増。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	今年度中に観光客の動向にあった施設の開館時間の設定等の検討を行う。